

障害者が使いやすい携帯端末などのソフト開発 会津大の教授と学生、会津養護学校に贈る

会津大コンピュータ芸術学講座のマイケル・コーエン教授と同大3年の西村健亮さんは障害者が使いやすい多機能携帯端末用の基本ソフトと、マウスやキーボードを使わなくてもスイッチでパソコンなどを簡単に操作できるシステムを共同開発し、17日、福島県会津若松市の会津養護学校にプレゼントした。

多機能携帯端末用の基本ソフトは肢体不自由者が端末のタッチパネルの画像に触れるだけで「飲み物がほしい」「おなかがすいた」などの音声が出るようにプログラムした。

スイッチは市販品を使用し、パソコンに専用ソフトを組み込むことでスイッチを押すだけでパソコンなどの音楽の再生・選曲などができるようにした。

ソフトやシステムの開発は昨夏、養護学校の評議員を務める佐々木篤信教授を通じて兼本茂学生部長に相談があり、インターフェースが専門のコーエン教授が引き受けた。市の地域貢献研究費などを活用。コーエン教授と西村さんは学校に何度も足を運び改良を加えた。

この日はコーエン教授と西村さんらが多機能携帯端末1台とスイッチなど約20台を子どもたちに手渡した。真部知子校長は「自分の意思を伝え、自ら操作して反応を感じることができることは、子どもたちにとって、とても大きい」と話し、コーエン教授は笑顔の子どもたちに「私にとっても喜び」と語った。

【写真】多機能携帯端末やスイッチを贈るコーエン教授(中央右)と西村さん(同左)

